



### 「人類の飽くなき好奇心」

本年8月6日、アメリカの探査ロボットが火星に降り立ちました。彼の使命は、火星に生命をもしくはその痕跡を探ることです。

◆火星にもかかわらず海があった？  
生物が存在するためには、水が必要です。私たちの地球には海があり、水が循環しています。火星には海も川もありません。地球よりも1.5倍ほど太陽から遠いところにある火星は、平均気温がマイナス60℃以下となり低めです。質量が地球の10分の1程度しかないので重力が小さく、水は水蒸気となって宇宙へ逃げてしまったか、水の形で地下に眠っていると考えられています。

しかしこれまでの火星探査か

ら、火星にもかかわらず海があったと考える研究者が増えてきました。太古の火星には生命が誕生していたかもしれない、もしかしたら現在もその末えいが生き延びているのかもしれない、そんなことが真面目に議論されるようになってきました。

### ◆「生命とは何か」

私たちにとって異世界である火星の生命についての探究は、地球に生まれた生命、そして私たち自身を知るための旅でもあります。遠い火星の空の下、「生命とは何か」という普遍的な問いの答えを求めて進む、探査ロボットの名前は「キュリオシティ」好奇心。人類の飽くなき好奇心がもたらす今後の成果を、どうかお楽しみに。



【写真：地球は水の惑星】

生命の海科学館の展示「地球は水の惑星」では、地球環境が絶妙なバランスの上に成り立っていることを知ることができます。この秋、「あいちサイエンスフェスティバル2012」が県内全域で開催されます(11月4日まで)。地球のこと、宇宙からの視点で考えてみませんか？



東京都千代田区、かつての江戸城北の丸に、「国立公文書館」という国の機関があります。戦前の行政に関する資料を多く保管している施設です。先日、ここでひとつの興味深い書類を見つけました。「まぼろしの鉄道路線」に関する資料です。

大正10年(1921年)、三河鉄道株式会社(本社刈谷)は、蒲郡駅と豊川稲荷を直接むすぶ鉄道の建設を計画し、許可を得るため申請書を国(当時の鉄道省)へ提出しました。

その路線というのは、蒲郡駅を始点として、府相・三谷・大塚と東へ進み、旧御津町の西方海岸のところまで左折、そのまま北へ上がって、国府へ至り、以下、八幡・諏訪・金屋、そして終点の豊川稲荷へと続くものでした。

### まぼろしの鉄道路線

申請の結果は、どうだったのでしょうか？ 鉄道省は、「現在の状況において必要性がみとめられない」と回答、建設の許可はおりませんでした。

蒲郡市と豊川市は、かつて宝飯郡に属していた地域です。現在、電車で蒲郡から豊川の中心部へ行くには、一度、豊橋駅まで出てから、飯田線や名鉄線に乗り換える必要があるのです、少し手間がかかります。

もしこの計画が実現していたら：わたしたち蒲郡市民は、お正月のお稲荷さん参拝や、運転免許センターでの更新手続きに、電車で乗り換えなしでいけたわけですね。蒲郡の町の発展も、また少し違ったものになっていたかもしれません。

博物館では、10月中、この「まぼろしの鉄道路線」に関する資料(写真パネル)を1階ロビーに展示します。ぜひご覧ください。

